

募 集 要 項

- 1 趣 旨 少子高齢化と共に近年日本の人口が減少する中、私たちの住む置賜地域も人口が確実に減少しています。このまま推移すれば、地域を支える人材や働き手が不足するだけでなく、地域全体の衰退に結びつくものと懸念されています。様々な要因の一つに、高校生が進学・就職で県外に出て、戻ってくる人が少ない「若者流出」があげられています。地域と私たちの未来はどうなるのか。2年後に進学・就職を迎える皆さんにとって、今まさに地域に育つ当事者として、この地域の未来を見つめ、自分の将来の生き方を考えることは、どのような進路に進むにしても大切なことです。当コンテストは高校生の皆さんが地域と自分の未来を考える契機になることを願い、実施するものです。
- 2 テ ー マ 人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため、地域の未来と私の生き方を考える
- 3 対 象 者 置賜地区高等学校2年生
- 4 応募規程 ①募集要項の資料編や独自の資料を参考にして、テーマについて考えをまとめください。また、各自の題名を付けてください。
②文字数は1200字以内（400字詰め原稿用紙3枚以内）
③原稿用紙は縦書きに、1行目に題名、2行目に学校名・氏名、3行目から本文を書いてください。題名、学校名・氏名も字数に数えます。
④使用鉛筆はHB又はBを用い、字は大きく鮮明に書いてください。
- 5 審査の観点 ①観察力 現状を注意深く見て学習し気づきを得ているか。
②提案力 独創性に富み前向きな提案であるか。
③主体性 自分が課題解決にどのように具体的に関わっていくか。
④論理性 客観的、合理的な論理展開ができているか。
⑤表現力 誤字脱字がなく、言いたいことを十分に伝えている文章であるか。
この5つの観点を踏まえた小論文を書いてください。この観点を評価します。
- 6 応募先 各学校の担当者まで
- 7 募集締切 各学校で指定する期日まで
各学校から米沢有為会米沢支部事務局への提出締切日 9月6日（火）[必着]
- 8 表彰 最優秀賞1点 優秀賞4点 入選5点
- 9 表彰式 10月29日（土） ホテル モントビュー米沢
- 10 審査委員長 米沢有為会会長 平山英三
- 11 主催・共催 公益社団法人米沢有為会 学園都市推進協議会
- 12 後援・協賛 置賜総合開発協議会 置賜地区高等学校校長会 米沢商工会議所 長井商工会議所
米沢信用金庫 NCV株式会社ニューメディア

（注）この募集要項・資料編や今までの優秀論文を右のQRコードからもご覧になれます。



資 料 編

■ はじめに、山形県及び置賜地区の人口の動きを、将来推計人口(資料1)と、令和2～3年の県外転入・転出状況(資料2)の二つの視点から見てみましょう。

資料1 山形県及び置賜地区市町別の将来推計人口

	2020 年	2025 年	2035 年	2045 年	人口変化率 2045/2020 (%)
山形県	1,072,473	1,015,910	897,075	768,490	72.7
米沢市	81,986	77,483	67,817	57,720	70.4
長井市	25,857	23,918	20,160	16,377	63.3
南陽市	30,715	29,017	25,494	21,762	70.9
高畠町	22,546	21,131	18,214	15,115	67.0
川西町	14,228	12,783	10,148	7,655	53.8
小国町	6,931	6,059	4,517	3,220	46.5
白鷹町	13,030	11,918	9,839	7,797	59.8
飯豊町	6,618	5,956	4,755	3,620	54.7
置 賜	201,911	188,265	160,944	133,265	66.0

出典：国立社会保障・人口問題研究所

置賜地区では、2045年の人口が2020年と比較して34.0%減少すると推計されています。

資料2 山形県（置賜）の県外転入・転出状況（令和2年10月～令和3年9月）

※若年層とは15～24歳

単位：人

山形県の県外転入(置賜) [a]		山形県の県外転出(置賜) [b]		山形県の転出超過(置賜) [b-a]	
	若年層(置賜)		若年層(置賜)		若年層(置賜)
13,453 (2,290)	3,913(619)	16,733(3,026)	6,810(1,322)	3,280(736)	2,897(703)

出典：令和3年山形県の人口と世帯数

令和2年～令和3年の山形県(置賜)の県外転入・転出状況は、3,280(736)人の転出超過です。

また、山形県(置賜)の若年層(15～24歳)の転出超過は2,897(703)人となっており、高校や大学等の卒業や就職を迎える若者の転出超過が多く、県人口減少の大きな要因になっています。

資料3 山形県の高校卒業者の県外への進学就職状況

単位：人

	卒業者数	大学等進学者 数(うち県外)	専修学校進学者 数(うち県外)	就職者数 (うち県外)	計 (うち県外)	県外の 割合
令和2年度	9,791	4,515 (3,254)	2,157 (1,444)	2,755 (707)	9,427 (5,405)	57.3%
令和3年度	9,381	4,355 (3,142)	2,075 (1,339)	2,566 (512)	8,996 (4,993)	55.5%

出典：令和3年度学校基本調査卒業後の状況調査山形県結果について

高校卒業者のおよそ55%余りが進学や就職で県外に出ていきます。

■ 置賜地域とはどのような地域でしょうか。それに関連する資料として、置賜総合支庁作成の『令和3年度置賜地域の概況(令和3年7月)』があります。

資料 [r3okitamagaikyo.pdf \(pref.yamagata.jp\)](#)

また、山形(県)には、ゆとりのある暮らしと充実した子育て環境があります。「数字でみる山形」から見ましょう。

資料 [山形県の暮らし \(yamagata-iju.jp\)](#)

次に、日本全体の「少子化の現状」と「地方からの人口流出の背景」を国の白書(いずれも URL)から見ましょう。これらの資料は少し難しいかもしれませんが、挑戦してみてください。

(1) 日本の「少子化の現状」

内閣府資料 『少子化対策白書(平成29年度)』第1部少子化の状況及び少子化への対処施策の概況 第1章少子化をめぐる現状

https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2017/29webgaiyoh/html/gb1_s1-1.html

(2) 日本の「地方からの人口流出の背景」

総務省資料 『情報通信白書(平成27年度)』「地方からの人口流出と東京圏への集中」「人口流出の背景」

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/html/nc231120.html>

■ 人口減少の一因である「若者流出」等の状況を統計データで見てきましたが、これに歯止めをかけるさまざまな対策が講じられています。それらの取組を紹介しましょう。

資料4

置賜圏域の将来像・・・行政施策「置賜定住自立圏共生ビジョン」の取組例

置賜圏域は、歴史的背景や地理的要因から、行政区域を越えて生活圈を共有し、経済、教育、文化などの面で深いつながりを持ちながら発展してきた。これまで圏域内の各市町は、それぞれが活力ある地域づくりを実現するため、様々な取組をしてきたが、人口減少や高齢化は急速に進んでおり、今後もこうした傾向は続くものと予測される。この状況下で、地域の活性化を図り持続的に発展していくためには、単独自治体での事業展開には限界があることから、広域で連携し、効果的、効率的に行政運営を行うことが必要である。こうした認識のもと、置賜3市5町は、それぞれの独自性を維持しながら、地域の魅力をしっかりと磨き、その上で様々な分野において連携を深めつつ、住民の暮らしに必要な諸機能を圏域全体として確保することで、住民が暮らしやすい、活力ある圏域を創造し、共存共栄を目指す取組を行う。それが「置賜定住自立圏」というもので、米沢市が「中心市」、2市5町が構成市町となり協定を締結し、共生ビジョンに基づいて連携事業を推進する。具体的な取組として①生活機能の強化(医療、福祉、教育、産業振興、環境、水道、消防・防災)、②結びつきやネットワークの強化(交通、移住・定住・交流)、③圏域マネジメント能力の強化(職員等の交流)の3つの政策分野で取組を行う。

出典：米沢市 「広報よねざわ」 2019.5.1

資料5

若者定着・若者回帰に向けた県内の諸取組の紹介

[事例1] 山形県と大学等との UI ターン就職促進協定 27大学等と協定を結ぶ

山形県では、山形県内の企業情報等の提供、大学内での就職ガイダンスの開催等について、大学等と連携して取り組むことにより、Uターン・Iターン就職の一層の促進をはかり、県内企業の人材を確保することを目的として実施している。

<協定締結大学> 東海大学、神奈川大学、専修大学、大東文化大学、日本大学、明治大学、
国士舘大学、駒澤大学、東洋大学、文教大学、立教大学、帝京大学、帝京大学短期大学、明
治学院大学、立正大学、拓殖大学、立命館大学、法政大学、千葉商科大学、神奈川工科大学、
関東学院大学、東京工科大学、日本工学院専門学校、日本工学院八王子専門学校、日本工学
院北海道専門学校、東北学院大学、東北工業大学

出典：山形県雇用・産業人材育成課

〔事例 2〕 山形県若者定着奨学金返還支援事業の実施

大学等へ在学の方又は進学予定の方を対象として、県と県内市町村が連携して、奨学金の返還を支援する事業。米沢有為会、長井教育会、飯豊町も市町村枠で実施。平成 27 年度から始まり今年度も継続。要件は日本学生支援機構の第一種奨学金（無利子）の貸与を受けている方又は受ける予定の方、米沢有為会、長井教育会、飯豊町奨学資金の奨学生。大学等を卒業後 6 か月以内に、山形県内に居住かつ就業し、山形県内の助成対象分野に通算して 3 年間就業した後、申請し、助成対象者に認定された時点で返還金の一部の助成を受けることができる。

出典：山形県産業創造振興課

〔事例 3〕 高校生就職希望者や就職者に対する地元への人材確保・定着の諸取組

置賜地区雇用対策協議会（行政機関[米沢市・南陽市・高畠町・川西町]やハローワーク等が連携し、若者の雇用安定を目指す団体）が、模擬面接会（高校 3 年生対象）や企業説明会（高校 2 年生の就職希望者に向けて企業動画を制作）、新規卒者ビジネスマナー講習会や新入社員フォローアップセミナーなどの諸事業を実施。求人・求職者の両面からサポートし、雇用の確保と定着、就職支援に取り組んでいる。また、高校 1 年生を対象とした職業体験会（WAKU WAKU WORK）の開催など、進学者を含め地元にいるうちに地元企業を知ってもらう事業についても展開している。（令和 3 度は 4 校計 4 1 6 名の高校生を対象に実施）

〔事例 4〕 各高等学校における多様な取組

各高等学校においては課題研究や探究学習における地域学習の展開や、職場見学・体験、インターンシップの実施などを通して、郷土愛を育むとともに、社会的自立に向けた勤労観・職業観の育成を目指した多様な特色ある取組が行われている。

〔事例 5〕 働く人の様子・思いなどを SNS で発信

米沢商工会議所が、若手社員や経営者などへのインタビューにより地域で働く魅力を発信する「よねざわのわわわ」[URL:米沢商工会議所 (jinzaikakuho-yamagata.info)]プロジェクトを企画・実施。高卒就職者や県外大学へ進学後の U ターン、他地域からの I ターン事例など幅広い情報をインスタグラムや動画などで発信している。

<米沢有為会からの一年早めの情報>・・奨学金と学生寮の募集案内

米沢有為会では、皆さんが再来年大学等へ進学した後の学生生活を応援するために

① 3 つのタイプの奨学金（貸与型：女子向け住居費補助奨学金 2 万円と一般貸費奨学金 4 万円、減免型：地元若者定着奨学金 4 万円条件を満たせば 2 万円減免 いずれも無利子）と

② 東京と仙台に男子学生寮（平日朝夕 2 食付き、個室、月 5 万円程度）を用意しています。

今から情報をゲットしてみてください。

詳細は米沢有為会 HP で（QR コードからどうぞ！）

